

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

—小学校・社会科— vol. 3

平成 18 年 1 月 栃木県総合教育センター

平成 16 年度教育課程実施状況調査(小学校第 5 学年段階の内容)のペーパーテスト調査結果から、今回は、「我が国の国土の様子」について、指導のポイントを示します。

ペーパーテスト調査結果からみえた課題

- ・「我が国の国土」について、日本列島を構成する主な島のうち「北海道」を答える問題の通過率は、5 割未満です。(本県…45.2%、全国…48.4%)
- ・「気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」について、「冬の寒さから暮らしを守る工夫」に合う資料を選ぶ問題の本県の通過率(67.8%)は、全国の通過率(79.5%)を 11.7%下回っています。

我が国の国土の位置や構成、地形や気候の特色、気候条件から見て特色ある地域の人々の生活については、平成 11 年度から 5 年生で学習するようになりましたが、調査結果では、一部、知識の定着が十分ではないという状況がみられました。今回は、作業的な学習を取り入れたり事実を関連付けたりして、基礎的・基本的な知識の定着を図り、我が国の国土の様子を理解するための指導の工夫について述べていきます。

我が国の国土の構成や地形に関する基礎的な知識の定着を図りましょう

次に示すのは、我が国の国土を構成する島の名前と地形の特色についての理解をみる問題です。都道府県の位置と名称に関する問題と同様、通過率が設定通過率を大きく下回りました。半数以上の児童は、我が国の国土を構成する主な島として「北海道」と答えることができず、3 人に 1 人は、我が国の地形の特色についての理解が十分ではないという状況でした。

次の（ア）と（イ）にあてはまることばを書きなさい。

日本列島は、四つの大きな島から成り立っています。それらは、北から（ア）、**本州、四国、九州**の四つです。

また、国土全体の地形をみると、平地よりも（イ）が多く、本州の中央部には、「日本の屋根」とよばれる、高い山々が連なっています。

本県の通過率	全国の通過率	設定通過率
ア 45.2%	ア 48.4%	ア 80%
イ 65.7%	イ 65.8%	イ 75%

高学年のほとんどの児童は、おそらく「北海道」という地名を知っており、地図を見れば、その位置を指し示すことができるでしょう。しかし、このように出題されたときに正しく解答できないということは、「北海道は島である」という認識が十分でない、あるいは、我が国を構成する主な四つの島の分布を頭の中で思い描くことができない（地名から地図をイメージすることができない）のかもしれませんが。また、「平地」や「山地」という語の意味や、「山がちな国土」という我が国の地形の具体的な特色を理解できていないことも考えられます。

「この程度のことは分かっているだろう」と教師側は思いがちですが、基礎的・基本的な事項として確実に身に付けることができるよう、次のことを参考に指導を工夫しましょう。

1 地図を書き写す、略地図を描くなど、作業的な学習を取り入れましょう

授業では、我が国の位置や領土について教師が説明し、主な島や近隣諸国を教科書や地図帳で確認させたり、白地図などに国名などを書き入れさせたりしていると思いますが、ここでは、地図を描く作業を通して知識の定着を図る工夫を紹介します。



日本地図を描いてみよう

まず、教科書や地図帳を見ないで、日本の形をノート 1 ページに大きく描くよう指示します。その後、描いたものを友達と見せ合い、感想や気付いたことを話させてから、地図帳で日本の形を確かめさせます。このとき、我が国の国土を構成する主な島に、北海道・本州・四国・九州があることをおさえます。

次に、地図帳で、近隣諸国と我が国の国土の範囲が分かるページを開かせ、日本の位置と領土を確認させてから、地図を描く練習をさせます。ここでは、我が国の位置やおおよその形が分かるようにすることがねらいですので、次のように段階的に作業させるとよいでしょう。

- ① 地図帳にトレーシングペーパーをのせて日本列島の海岸線をなぞる。
- ② 大陸の海岸線を描き加える。
- ③ 地図を見ながら、日本列島を描く。
- ④ 地図を見ないで、日本列島を描く。

描いた地図には、北海道・本州・四国・九州のほか、日本周辺の海や近隣諸国の国名などを地図帳で調べて記入させます。

このように地図を描く作業を行うことによって、わが国の国土の位置や構成についての理解が確かなものになります。



2 我が国の地形に関する具体的な事実をとらえさせましょう

我が国の国土の様子については、地形の特色として「山がちな国土である」ことを学びますが、こうした知識は、単に言葉として記憶するのではなく、具体的なイメージを伴って理解できるようにすることが大切です。

「我が国は山がちな国土である」ことを理解させるためには、次のような具体的な事実を知ることが必要です。

【我が国の地形の様子】

- ・ 国土のおよそ4分の3は山地である。
- ・ 国土の中央部にたくさんの高い山々が連なっている。
- ・ 山地が海岸近くまで迫っているところが多く、広い平野が少ない。
- ・ 川は短く流れが急である。

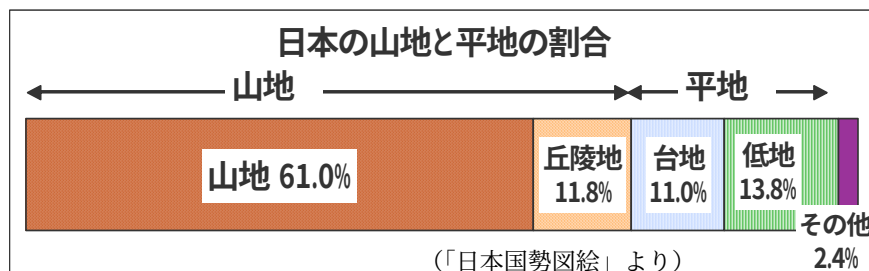


また、山の斜面に果樹園や棚田が作られるなど土地利用の工夫がなされていることや、火山や溪谷は温泉や登山などの観光資源となっている一方、洪水や土砂崩れなどの自然災害が起きやすく、備えが必要であることなど、人々の暮らしとのつながりがみえてくるように指導すると、生活に役立つ知識として身に付いたものになります。

ここでは、我が国全体の国土について地形の様子をとらえることが大切です。授業では、まず、「山地」、「平地」など、地形の様子を理解するうえで必要な用語について説明しましょう。次に山地と平地の割合を示したグラフや、地形の様子を表した地図を読み取ったり、川の流れと地形の関係を考えたりするなど、地図や統計資料を活用した学習を充実させましょう。

指導のアイデア

- ・ 模式図や立体模型を用いて、山地、山脈、平野、盆地などについて説明する。
- ・ 山地と平地の割合を示すグラフ、立体地図や等高線段彩式の地勢図など、地形の様子を立体的に示した地図を提示する。
- ・ 航空写真、棚田や果樹園、山岳や溪谷の写真などを見せる。
- ・ 自然災害の様子を伝える新聞記事などを紹介する。



※丘陵とは、山地のうち低地（平野）からの高さが300m以下のもの。

世界地図を使って、日本列島だけでなく、世界全体の地形の様子を見てみましょう。イギリスなど、ほかの国と比べてみると、「山がちな国土である」という我が国の地形の特色がよく分かります。

我が国の気候の特色をとらえ、気候に適応した暮らしについて理解させましょう

次に示すのは、「気候条件から見て特色ある人々の生活」に関する問題で、冬の寒さから暮らしを守る工夫についての理解をみるものです。本県の通過率は67.8%で、全国の通過率を11.7%下回りました。全国に比べて通過率が低い主な理由として、本県の小学校で使用している教科書では寒さの厳しい地域は取り上げていないため、「二重まど」は冬の寒さから暮らしを守る工夫であることを授業で学習していないことが考えられます。また、「寒い地方はたくさん雪が降る（寒さが厳しい＝積雪量が多い）」と誤解していて、冬の寒さから暮らしを守る工夫と雪から暮らしを守る工夫を混同している児童も少なくないと思われます。

本県の通過率

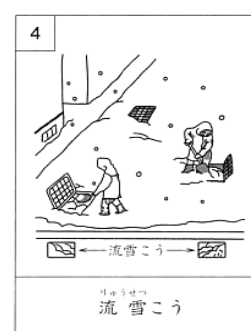
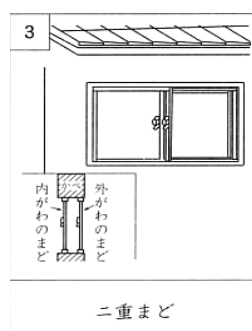
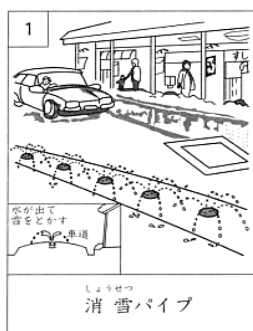
67.8%

全国の通過率

79.5%

正答 3

「冬の寒さから暮らしを守るくふう」にあうものを、次の中から一つ選んで、その番号を書きなさい。



「気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」の学習では、取り上げる地域の気候の特色をとらえることが大切です。地域によって気候がどのように違うのかが分からないのでは、それぞれの気候に適応した生活や産業の様子について正しく理解することができません。

地域による気候の違いを正しく理解し、気候などの自然条件と生活や生産における工夫とを関連付けた見方・考え方ができるよう、指導を充実させることが望まれます。

ここでは、気候の特色をとらえることと、気候に適応した暮らしを理解するための指導の工夫について述べます。

1 我が国全体の気候の大まかな様子を理解させましょう

我が国の気候の特色については、四季の変化が見られることや、国土の南と北、太平洋側と日本海側では気候の様子に違いがあることなどを学習します。授業では、資料を手がかりにした学習が中心になるので、地図や、気温と降水量のグラフ、写真を活用するなどして、気候の特色を具体的にとらえることができるよう丁寧に指導しましょう。対照的な地域、あるいは、自分たちが住んでいる地域と比較させたり、資料の数値を具体的なものと置き換えて説明を補ったりすると、自分の経験等と結び付けて理解させることができます。

次に、気温や降水量に関する資料を手がかりにして、我が国の気候の特色をとらえさせる工夫を示しますので、参考にしてください。

教科書や地図帳には、日本列島の気温と降水量を表した図が載っています。これらの資料を活用して、我が国における気温と降水量の地域差をとらえさせましょう。

2月の気温と降水量について調べよう

1 気温、降水量、それぞれについて調べる。

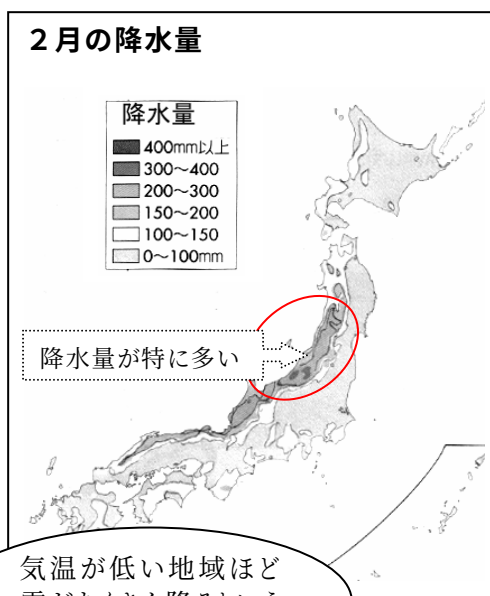
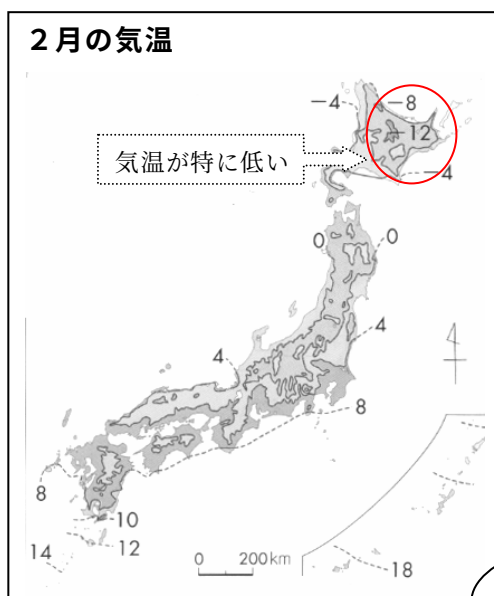
- ・同じ時期でも、気温や降水量は地域によって異なる。
- ・南と北、太平洋側と日本海側、沿岸部と内陸で、気温と降水量に違いがある。
 - ・気温は、北ほど低い（冬の南北の気温差は30℃以上にもなる）。
 - ・冬は、海から離れたところほど気温が低い。
 - ・冬の日本海側は降水量が多い。

我が国の気候は、緯度や地形と関係があり、季節風や海流などの影響を受けています。



2 二つの図を比較して、気温と降水量について調べる。

- ・冬の北海道は気温が低い、降水量はあまり多くない。
- ・冬の新潟県は降水量が多い、気温はあまり低くない。



気温が低い地域ほど雪がたくさん降るということではないのね。



3 気温と降水量について調べ、分かったことをまとめる。

4 地域によって気温や降水量に違いがみられる理由を考え、地図帳などを活用して調べる。

このように、気温と降水量の様子を調べる活動を通して、我が国の気候条件をとらえることができます。このとき、「気温が低い地域が雪の多い地域であるとは限らない」という事実をおさえましょう。また、「なぜ、同じ時期でも地域によって気温や降水量が違うのか」という疑問をもち、地図帳などを活用して調べることも、我が国の気候や地形についての理解を深めることにつながります。こうして、国土全体の気候の大まかな様子をとらえさせたいうえで、気候条件からみて特色ある地域の人々の生活を調べさせることが大切です。

2 「気候条件から見て特色ある人々の生活」の学習内容を整理し、単元を構成しましょう

「気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」について、本県では、新潟県十日町市を例に「雪の多い地域の人々の暮らし」を、沖縄県那覇市を例に「温暖な地域の人々の暮らし」を取り上げて学習する学校が多いようです。取り上げる地域は異なっていますが、「気候条件に適応しながら生活していること」は共通しておきたい内容です。

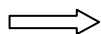
1 「守る」、「生かす」等の観点を設けて学習内容を整理する

単元構成を考えるに当たっては、7ページのように、観点を設けて学習内容を整理すると、様々な知識の関連性と全体像がとらえやすくなります。ここでは、「自然（災害）から暮らしを守る工夫」と「自然条件を生かす工夫」という観点で、人々の暮らしに見られる様々な工夫や取組を整理してあります。「守る」と「生かす」という観点は、他の地域を調べる際にも役立ちます。生活や産業の様子について、この観点で調べたり、調べたことを整理したりすることによって、自然環境に適応した暮らしについての理解が深まると考えます。

2 気候などの自然条件と人々の暮らしとの関連を整理する

この小単元では、それぞれの地域における生活や生産の工夫について、気候などの自然条件と関連付けた見方・考え方ができるよう指導することが大切です。次のように、自然条件と人々の暮らしとの関連を整理し、いくつか例示できるようにしておくといよいでしょう。

気候などの自然条件



生活や生産の工夫

- 例)・ 積雪によって交通が妨げられないよう、除雪や雪に備えた道路設備の工夫がされている。
- ・ 豊富な雪解け水に恵まれ、夏の気温も高いので、十日町市では米づくりがさかんである。
 - ・ 沖縄地方は台風の進路に当たることが多いので、台風から家を守る工夫をしている。
 - ・ 日照りによる水不足に備えて、沖縄島の南部には貯水タンクを備えた家が多い。
 - ・ 冬でも気温が高い沖縄島では、飛行機による輸送が可能になったことにより、他の県での生産が少なくなる時期に出荷できる花や野菜の生産がさかんになってきている。

3 事例の扱い方を考えて単元を構成する

「気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」については、事例地を一つ又は二つ取り上げて学習することになっています。児童の実態や学習のねらいを踏まえ、効果的な学習が展開できるよう単元を構成しましょう。例えば、はじめに雪の多い地域を取り上げて生活や産業の様子を調べ、「雪から暮らしを守る工夫」や「気候などの自然条件を生かす工夫」があることを学習した後で、温暖な地域についても、「自然（災害）から守る工夫」と「自然条件を生かす工夫」という観点で調べるという展開も考えられます。

事例の扱い方の例

- ア 二つの事例を全員で学習する。
- イ 二つの事例のうち、どちらかを児童が選択して調べる。
- ウ 一つの事例を全員で学習し、他の地域を発展的に扱う。

十日町市を事例にした学習で身に付けた知識や見方を生かして、沖縄県の事例を学ぶ など。



気候条件の異なる地域を比較することで、それぞれの気候の特色がより明確になり、人々が自然環境に適応しながら生活や産業を営んでいることがとらえやすくなります。

気候条件から見て特色ある地域の人々の生活

我が国は、南北に長く連なった島国であるため、地域によって気候に大きな違いがあり、人々の暮らし方にも違いが見られる。



雪の多い地域

例) 新潟県十日町市

日本海側の中部地方は、世界有数の豪雪地帯で、新潟県十日町市は、冬の降水量が多く、最大積雪深が約2mにもなる。

気候の特色

あたたかい地域

例) 沖縄県那覇市

日本列島の南に位置する沖縄県は、冬でも暖かい。
台風の進路に当たり、年間降水量は全国平均より多い。

人々の暮らし

【雪から守る】

- 雪に備えた家の造りや雪に対処する努力
太い柱、傾きが急な屋根、
2階が玄関の家、雪下ろし
- 交通を確保するための工夫や取組
消雪パイプ、流雪溝、除雪車、
縦型信号機

守る工夫

【台風から守る】

- 台風に備えた家の造り
石垣、しっくい固められた屋根、
コンクリートづくりの家、平らな屋根
- 水不足に備えた工夫
ダム建設、海水を淡水に変える工場
貯水タンクのある家

【雪を生かす】

- 気候や地形を生かした産業や技術開発
織物、酒造、精密機械工場、コシヒカリ、
水力発電
- 雪を積極的に利用したり親しんだりする活動
雪室、貯雪槽のある家、
雪祭り、雪遊び、スキーなどの観光

生かす工夫

【あたたかい気候を生かす】

- 気候を生かした農業
サトウキビ、野菜、花の生産、
米の二期作
- 自然や歴史を生かした観光
美しい海、珊瑚礁、海水浴、カーニバル、
特有の文化

それぞれの自然環境に適応しながら仕事や生活をしている。
「自然（災害）から守る工夫」と「自然条件を生かす工夫」がある。

3 事実を関連付けて整理したり考えたりすることを指導しましょう

「気候条件から見て特色ある地域の人々の暮らし」については、自分が住んでいる地域と異なる様々な事象を知っただけで学習が終わってしまうことのないようにすることが大切です。様々な事象を集めただけでは、「いろいろな工夫をしている」という浅い理解にとどまってしまうます。雪の多い地域の暮らしを調べて、流雪溝、縦型信号機、雪下ろし等、様々な事象を見つけた後に、それらが見られる理由について考えさせましょう。「何のために、それがいいのか」、「なぜ、そうしているのか」ということを考えながら、雪の多い地域に見られる様々な事象を分類・整理することで、気候の特色と人々の暮らしとの関連が浮き彫りになります。

次の例を参考に、他の事象との関連を考えたり、複数の事象から共通点を見出してまとめたりする学習を工夫してみてください。

調べたことを整理して考えよう

1 雪の多い地域の人々の暮らしについて調べる。

流雪溝	縦型信号機	雪下ろし	雪室
消雪パイプ	織物	雪遊び	雪祭り
2階が玄関の家	傾きが急な屋根	精密機械	



雪の多い地域には、
いろいろな工夫があ
るんだなあ。

2 「何のために、それがいいのか」、「なぜ、そうしているのか」を考えながら、共通するものをグループに整理する。

※それぞれのグループには、内容が分かるような小見出しを付ける。

例)

○交通の確保

縦型信号機

消雪パイプ

流雪溝

○家の工夫

傾きが急な屋根

2階が玄関の家

雪下ろし

○雪の利用

雪遊び

雪祭り

雪室

○産業

織物

精密機械



いろいろな工夫が
あることが分かった
けれど、なぜその
ような工夫をしてい
るのでしょうか？

＊「個人（家族）の工夫や努力」と「地域（市町村）の取組」という視点で整理してもよい。

3 雪の多い地域の人々の暮らしについてどのようなことがいえるか表現する。

4 雪の多い地域の人々の暮らしを学習して考えたことを書く。



平成 16 年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて作成した「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」も、今回が 3 回シリーズの最終となります。第 1 回(H17.5、冊子)、第 2 回(H17.9、リーフレット)とともにご活用ください。